

[成果情報名] 県北地域における好適移植期及び好適出穂期の推定

[要約] 高温・低温障害を避ける指標と生育予測システムを用いて、長崎県県北地域の標高 50m 毎の地点で好適移植期と好適出穂期を推定した。

[キーワード] 高温・低温障害、生育予測システム、好適移植期、好適出穂期

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・作物科、流通加工科

[連絡先] 電話(代表) 0957-26-3330 (直通) 0957-26-4350

[区分] 農産

[分類] 指導

[背景・ねらい]

高温・低温障害を避ける指標と生育予測システムを用いて、長崎県県北地域の標高 50m 毎の地点で高品質米を生産するための好適移植期と好適出穂期を推定する。

[成果の内容・特徴]

1. 「ヒノヒカリ」では、標高 10m の好適移植期は 6 月 1 日～20 日、好適出穂期は 8 月 21 日～30 日になり、標高 350m の好適移植期は 4 月 28 日～5 月 10 日、好適出穂期は 8 月 6 日～14 日になり、標高が高くなるといずれも早くなる。従来の移植時期は標高に関係なく 6 月上旬頃がピークなので、標高が高くなるほど移植時期を早める必要がある。
2. 一方、「どんとこい」の好適移植期は標高 10m で 6 月 22 日～7 月 4 日、標高 350m で 4 月 28 日～5 月 31 日となり、「ヒノヒカリ」より約 20 日程度遅くなり、標高 300m までは 6 月上旬の移植が可能である。
3. 標高 250m 以上では「ヒノヒカリ」の好適移植期の晩限は 5 月 20 日以前になるが、その時期は灌漑水が冷たく生育が遅れる危険があるので、6 月でも移植可能な極早生種の「どんとこい」に転換するべきであると考えられた。

[成果の活用面・留意点]

1. 他地域で適用できるかの検証が必要である。
2. 近年の温暖化の影響で、本適作型は適用できないので、温暖化に対応した適作型の推定が必要である。

[具体的データ]

表1 県北地域における標高50m毎の適作型

品 種	標 高	好適移植期		好適出穂期		成 熟 期	
		早 限	晚 限	早 限	晚 限	早 限	晚 限
ヒノヒカリ	10	6.1	6.20	8.21	8.30	10.3	10.15
	50	5.25	6.12	8.18	8.27	9.30	10.12
	100	5.18	6.4	8.15	8.24	9.27	10.9
	150	5.11	5.28	8.12	8.21	9.24	10.6
	200	5.1	5.25	8.6	8.20	9.17	10.5
	250	4.26	5.20	8.4	8.18	9.15	10.3
	300	4.27	5.17	8.5	8.17	9.17	10.2
どんとこい	10	6.22	7.4	8.21	8.30	10.1	10.13
	50	6.17	6.29	8.18	8.27	9.28	10.10
	100	6.11	6.24	8.15	8.24	9.25	10.7
	150	6.4	6.18	8.12	8.21	9.22	10.4
	200	5.22	6.15	8.6	8.20	9.15	10.3
	250	4.26	6.10	7.27	8.18	9.4	10.1
	300	4.27	6.7	7.28	8.17	9.6	9.30
350	4.28	5.10	8.6	8.14	9.19	9.29	

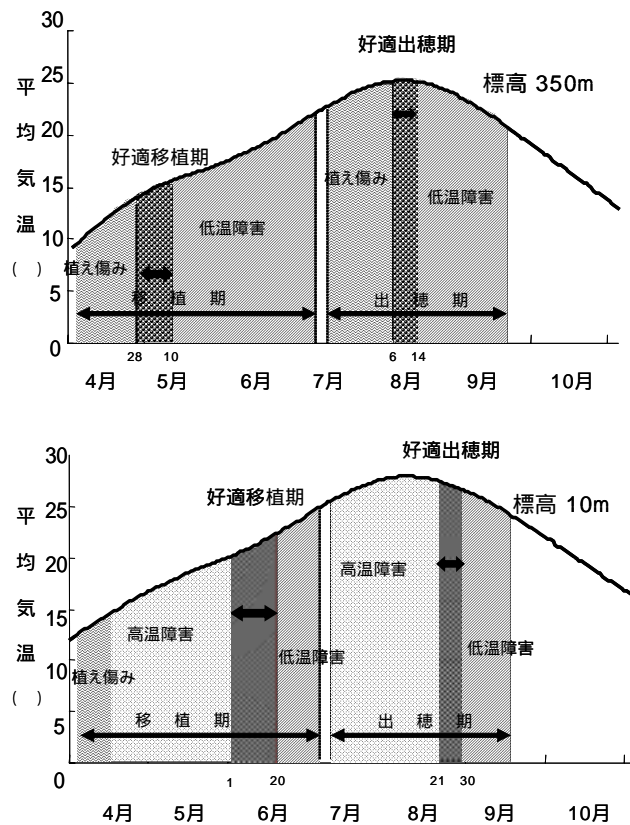


図1 県北地域における「ヒノヒカリ」の標高10mおよび350mの地点における好適移植期と好適出穂期の推定

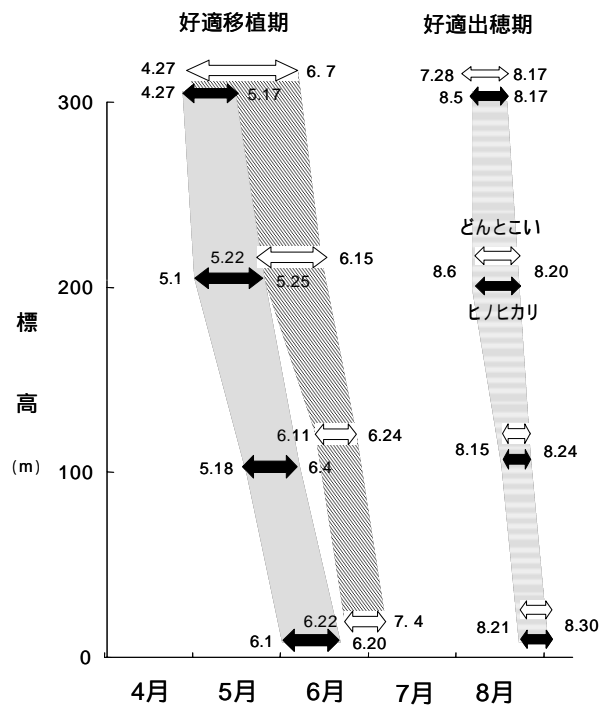


図2 標高100m毎の「どんとこい」および「ヒノヒカリ」の好適移植期と好適出穂期の推定

[その他]

研究期間：1996～1997年

研究担当者：舩場 貢、泉省吾、田崎信幸・島ノ江智弘・松下哲也(江迎農改)、井上眞理(九州大学)

発表論文：長崎県総合農林試験場特別研究報告 第4号(2008)